

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3144381号
(U3144381)

(45) 発行日 平成20年8月28日 (2008. 8. 28)

(24) 登録日 平成20年8月6日 (2008. 8. 6)

(51) Int. Cl. F 1
A 4 7 K 10/02 (2006. 01) A 4 7 K 10/02 Z
A 4 2 B 1/18 (2006. 01) A 4 2 B 1/18 Z

評価書の請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 4 頁)

(21) 出願番号 実願2008-4028 (U2008-4028)
 (22) 出願日 平成20年6月14日 (2008. 6. 14)

(73) 実用新案権者 504089633
 須田 勇
 埼玉県東松山市大字松山2 4 8 8 - 5 9
 (74) 代理人 100093610
 弁理士 本庄 富雄
 (72) 考案者 須田 勇
 埼玉県東松山市大字松山2 4 8 8 - 5 9

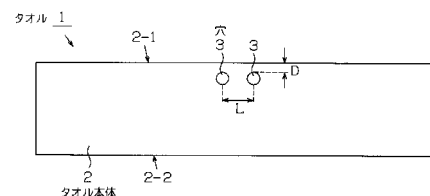
(54) 【考案の名称】 タオル

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】目の周囲や額の部分も、紫外線よけや日焼け防止等が出来るタオルを提供する。

【解決手段】長方形のタオル本体2の一方の長手方向辺2-1の略中央部分であって、且つ該長手方向辺2-1からほぼ人間の目の上から額の上端までの長さに相当する長さDだけ離れた位置に、該長手方向辺2-1に沿って人間の目の間隔に相当する間隔Lで、穴を2つ開ける構成とした。穴3を目に当てがい、両端を頭の後ろに回して結ぶと、目を除いて、顔全体をタオル1で覆うことが可能となる。

【選択図】 図1



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

長方形のタオル本体（２）の一方の長手方向辺（２－１）の略中央部分であって、且つ該長手方向辺（２－１）からほぼ人間の目の上から額の上端までの長さに相当する長さ（Ｄ）だけ離れた位置に、該長手方向辺（２－１）に沿って人間の目の間隔に相当する間隔（Ｌ）で、穴（３）を２つ開けたことを特徴とするタオル。

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

【０００１】

本考案は、顔を覆いつつ作業等をするのに便利なタオルに関するものである。

10

【背景技術】

【０００２】

図３は、従来のタオルの１例を示す図である。図３において、１はタオルである。

周知のように、タオル１は細長い長方形の布から成っており、その本来の用途は、濡れた手や身体を拭いたりすることである。しかしながら、タオル１は、顔の日焼けを防止したり、粉塵や農薬を吸い込むのを防止したりしたい場合に、顔を覆う手軽な手段としてしばしば用いられている。最近では、太陽光に含まれている紫外線を浴びると、健康に悪影響を及ぼすことが広く知られるようになって来たこともあり、紫外線をよける意味をも込め、顔を覆う手段として用いられるようになってきている。

【０００３】

20

図４は、従来のタオルの使用例を示す図である。図４において、１はタオル、４は帽子、５は人である。

農園等で作業する人５は、汗を拭くために必ずタオル１を持っているものであるが、そのタオル１で、紫外線よけや日焼け防止のために顔を覆う。その場合、タオル１の中央部分を鼻の所に当てがい、タオル１の両端を頭の後ろで結んでずり落ちないようにしている。

こうすれば、鼻から下はタオル１に覆われるから、太陽光に当たらず、紫外線をよけたり日焼けを防止したりすることが出来る。

【０００４】

なお、従来のタオルには前記したような通常のタオルの他、次のようなものもある。実用新案登録第３１１９０２４号のタオルは、両端に手がかけれるような穴を開け、そこに手をかけて背中を拭くと、握力が弱った高齢者でも容易に背中が拭けるようにしたタオルである。また、実用新案登録第３１１９０２４号のタオルは、略中央部に１つの穴を開けておき、洗濯して干す時には、物干し竿に掛けた後、いずれか一方の端をこの穴に挿通して干すようにしたタオルである。このタオルでは、竿から落ちることがないので、洗濯拭が不用となる。

30

【特許文献１】実用新案登録第３１１９０２４号

【特許文献２】実用新案登録第３１１９０２４号

【考案の開示】

【考案が解決しようとする課題】

40

【０００５】

前記した従来のタオルでは、紫外線よけや日焼け防止等のために顔を覆う場合、目や額までも覆うと前方が見えなくなり、所要の作業が出来なくなってしまう。そのため、覆うことが出来るのは鼻から下の部分だけとなり、それより上はどうしても紫外線よけや日焼け防止等が出来ないという問題点があった。

本考案は、このような問題点を解決することを課題とするものである。

【課題を解決するための手段】

【０００６】

前記課題を解決するため、本考案のタオルでは、長方形のタオル本体の一方の長手方向辺の略中央部分であって、且つ該長手方向辺からほぼ人間の目の上から額の上端までの長

50

さに相当する長さだけ離れた位置に、該長手方向辺に沿って人間の目の間隔に相当する間隔で、穴を2つ開けることとした。

なお、タオル本体の他方の長手方向辺に沿っても、同様にして2つの穴を開けた構成としてもよい。

【考案の効果】

【0007】

本考案のタオルによれば、目の部分を除いて顔全体を覆うことが出来るので、従来のタオルに比べて紫外線よけや日焼け防止等を、効果的に行うことが出来るようになる。

【考案を実施するための最良の形態】

【0008】

10

以下、本考案の実施形態を図面に基づいて詳細に説明する。

図1は、本考案のタオルを示す図である。符号は図3のものに対応し、2はタオル本体、2-1、2-2は長手方向辺、3は穴、Dは長さ、Lは間隔である。長さDは、穴3から該穴3に近い長手方向辺2-1までの長さである。長さDの大きさは、ほぼ人間の目の上から額の上端までの長さに相当する長さとする。間隔Lは、2つの穴3の中心の間隔である。間隔Lの大きさは、人間の目の間隔（目の中心間の間隔）に相当する間隔とする。

【0009】

つまり、本考案のタオル1は、タオル本体2の一方の長手方向辺2-1の略中央部分であって、且つ該長手方向辺2-1からほぼ人間の目の上から額の上端までの長さに相当する長さDだけ離れた位置に、該長手方向辺2-1に沿って人間の目の間隔に相当する間隔Lで、穴3を2つ開けて成るタオルである。

20

【0010】

図2は、このような本考案のタオルの使用例を示す図である。符号は図1、図4のものに対応している。

このタオル1は、手や身体を拭こうとする場合、通常のタオルと同様に使えることは言うまでもないが、紫外線よけや日焼け防止等のために顔を覆うのに使おうとする場合は、次のようにして使うことが出来る。即ち、タオル1の略中央にある穴3から先が見えるように顔に当てがい、タオル1の両端を頭の後ろに回して結ぶ。

このようにすると、所要の作業をするためには覆ってしまうわけにはいかない目を除いて、顔全体を覆ってしまうことが出来る。そのため、従来のタオルでは覆うことが出来なかった鼻から上の部分についても、紫外線よけや日焼け防止等の効果を上げることが出来るようになった。

30

【図面の簡単な説明】

【0011】

【図1】本考案のタオルを示す図

【図2】本考案のタオルの使用例を示す図

【図3】従来のタオルの1例を示す図

【図4】従来のタオルの使用例を示す図

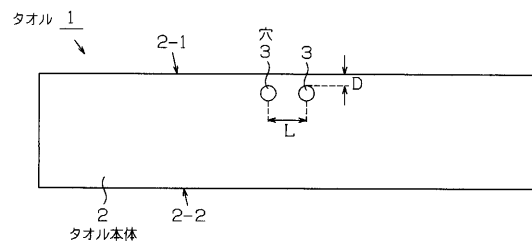
【符号の説明】

【0012】

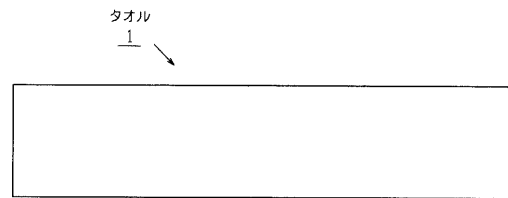
40

1…タオル、2…タオル本体、3…穴、4…帽子、5…人、D…長さ、L…間隔

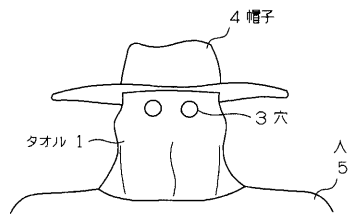
【図 1】



【図 3】



【図 2】



【図 4】

